

イグサ科

コウガイゼキショウ

Juncus prismatocarpus R.Br.
subsp. *leschenaultii*
(J.Gay ex Laharpe) Kirschner

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～7月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、河川の岸辺、水田に生育する多年草。茎の上部で盛んに枝分かれして、4～9個の花が球状に集まった花序をつける。名前の由来は、全体がサトイモ科のセキショウに似ていて、扁平な茎を髪結い道具の筭（こうがい）に見立てたもの。



①果実。②若い株。筭に見える？③株立ちする様子。花茎は平たい。

ホシクサ科

ホシクサ

Eriocaulon cinereum R.Br.

原産地：本州～沖縄

開花時期：8～10月

抽水
植物

在来種

湖沼やため池、水田に生育する一年草。幅2mm程度の細い葉を根生し、10cm程度の花茎の先端に灰白色の球状の花序をつけ、カワイイ。名前は、この頭花を星に見立てたもので、「干し草」ではない。現在、水田ではめっきり数を減らしていて、出会うと嬉しい水草のひとつ。



①ホシクサ。②近縁種のクロホシクサ。ホシクサによく似ているが花は黒っぽい。

ウキヤガラ

Bolboschoenus fluviatilis (Torr.) Soják
subsp. *yagara* (Ohwi) T.Koyama

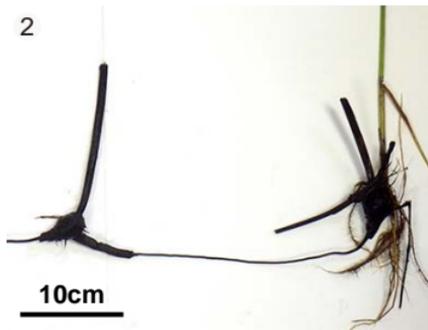
国内分布：北海道～九州

開花時期：5～8月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、河川の浅い水中に生える多年草。匍匐（ほふく）する地下茎をのばして群生する。茎は三角形で節から葉を伸ばす。茎の先端には穂が数個つき、このすぐ下に数枚の苞がかたまってつく。冬になると枯れて茎が浮き、矢柄のように見えるというが、ぜひ確かめて欲しい。



①花を咲かせた株。②地下茎の節は球状に肥大化し、枯れた後も残る。

コラム：特定外来生物の研究

新しい外来植物にであうと、どうやってここにやってきたのかという想像が掻き立てられますし、その生命力に感嘆させられることもあります。日本のように貿易の盛んな国には、日々たくさんの外来種が侵入してきますが、多くは定着できずに消えています。しかし、中には侵略的な外来種も含まれており、これらは繁茂すると駆除するのが難しいため、早期に対策を行う必要があります。

このミニガイドに出てくるオオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウなどは特定外来生物に指定されており、研究で採集や栽培をするには、環境省から許可を得る必要があります。実験方法と栽培する株数などを確定して許可を申請するため、実験途中に内容を変更することは原則できません。種子も株として扱われますので、発芽試験にも許可が要ります。特定外来生物の研究にはこのような苦労は多いですが、社会との関連も深くやりがいのある仕事です。



駆除作業で集められたオオバナミズキンバイ

カヤツリグサ科

カサスゲ



Carex dispalata Boott

国内分布：北海道～九州

開花時期：3～6月

抽水
植物



在来種

湖沼、ため池、河川、湿原に生える多年草。低地の水辺でよく出会う水草のひとつで、地下茎をよく伸ばして群生する。大きいものでは草丈は1mを超える。丈夫な長い葉は菅笠（すげかさ）や蓑（みの）に用いられてきた。茶褐色の雄花序が茎の先につき、その下に雌花序が数個つく。



①群生するカサスゲ。②結実期の様子。③菅笠を被って調査する植物学者。

カヤツリグサ科

アゼスゲ



Carex thunbergii Steud. var. *thunbergii*

国内分布：北海道～九州

開花時期：3～6月

抽水
植物



在来種

湖沼、ため池、河川の岸辺や、湿原、水田の畔に生育する多年草。カサスゲに比べるとかなり小さい。スゲの仲間がたくさんいるが、水辺で出会う種の中で草丈が50cm程度で葉の幅が2～4mmであれば、この種類の可能性が高い。2～5cmの雌花序は直立してつき、黄緑色の果胞と赤褐色の鱗片のコントラストが美しい。



①花期。
②果実期。

カヤツリグサ科

マツバイ

Eleocharis acicularis (L.) Roem. et Schult.
var. *longiseta* Svenson

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～9月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、水路に生育する一年草。細い地下茎の節から複数の茎が伸び、茎の先端に花序が付く。松の葉よりも細い茎は長さ 10 cm に満たない程度で、マット状に群生する。触り心地は柔らかく、広い群落の上に寝転ぶと気持ちよいが、濡れたり泥まみれになるので要注意。



① マット状に広がる様子。② 地下茎の節から茎を伸ばす。

カヤツリグサ科

ハリイ

Eleocharis congesta D. Don
var. *japonica* (Miq.) T. Koyama

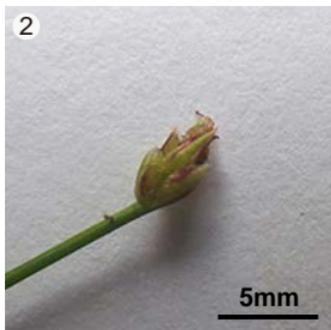
国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～10月

抽水
植物

在来種

湖沼やため池、水田に生育する一年草もしくは多年草。地下茎を持たず、針の様に細い茎がたくさん生えて株立ちする。花序は茎の先端につき、草丈はマツバイより大きく 10～20cm 程度。水中ではさらに大きくなる。



① 株立ちして生える様子。② 花序の大きさは5mm程度ととても小さい。③ 花序から新しい茎が伸びることがあり偽胎生と呼ばれる。この茎が根付いて新しい株となる。

ヒメホタルイ

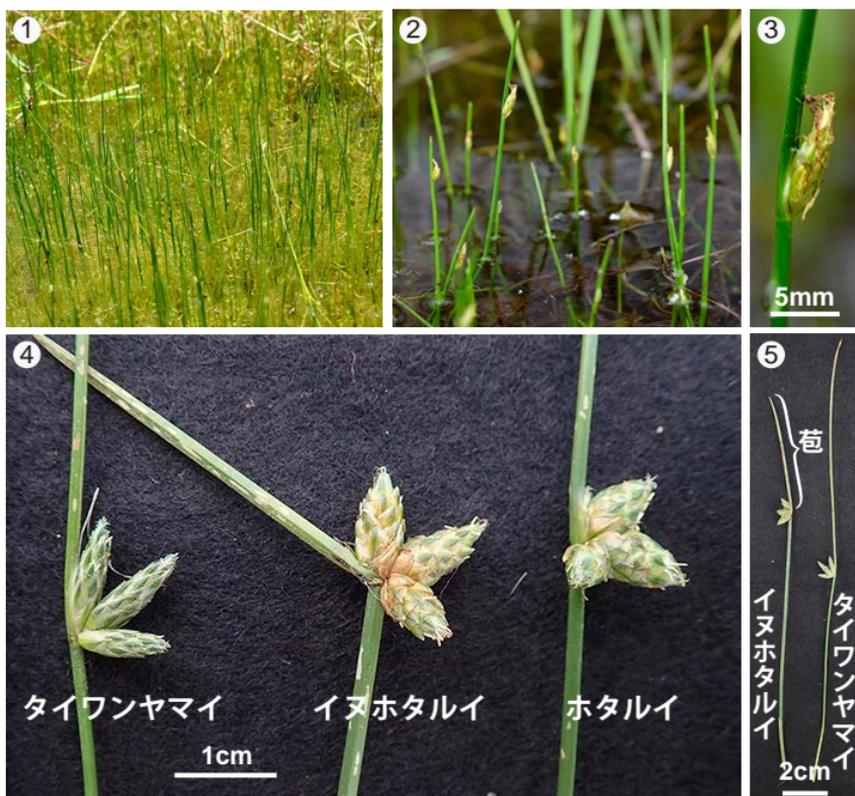
Schoenoplectus lineolatus (Franch. et Sav.) T.Koyama

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～10月



湖沼やため池、水田に生育する多年草。地下茎を伸ばし、各節から10～20cm程度の茎を1本だけ伸ばす。花序は花茎の途中についているように見えるが、花序から上は花茎ではなく苞である。秋には地下茎の先端に越冬芽をつくる。1m以上の水深でも生育可能で、岸边にいなくても、水底に生育していることがある。



①ヒメホタルイが群生する様子。②花をつけたヒメホタルイ。とても小さい。③5～10mm程度の花序を一つだけつける。④ヒメホタルイに似た3種の花序の比較。ヒメホタルイと異なり花序を複数付ける。台湾ヤマイの柱頭は2つに分かれる。イヌホタルイの柱頭は2つに分かれることが多いが、ホタルイの柱頭は3つに分かれる。⑤花茎の上部に伸びる苞の長さは、ホタルイやイヌホタルイでは花茎の1/4から1/6程度だが、台湾ヤマイは1/2から1/3程度で苞が長いように見える。

カツリグサ科

カンガレイ

Schoenoplectus triangulatus (Roxb.) Soják

国内分布：北海道南部～沖縄

開花時期：6～10月

抽水
植物



在来種

湖沼、ため池、河川、水路に生える多年草。茎の断面は三角形で、長く伸びる地下茎はなく、茎が株立ちする。花序には柄が無い。大きなものは1mを超え、慣れれば遠くからでも本種であることがわかる。



①株立ちして生えている様子。②花序は多数出る。茎は三角。③茎の根元を鞘状に包んでいるものが葉。地下茎はない。

カツリグサ科

サンカクイ

Schoenoplectus triquetus (L.) Palla

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：7～10月

抽水
植物



在来種

湖沼やため池、河川の岸辺に生える多年草。草丈は大きいもので1mを超える。カンガレイに似るが、サンカクイは地下茎を出し、花序には柄があることがあるので識別できる。茎の断面は名前の通り三角形。



①サンカクイは地下茎があるので1本ずつバラバラと生え、カンガレイは地下茎がないので株立ちになる。②サンカクイの地下茎。③サンカクイとカンガレイの花序の比較。サンカクイの花序には柄があり、苞が短い。

カヤツリグサ科

フトイ

Schoenoplectus tabernaemontani (C.C.Gmel.) Palla

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～9月

抽水
植物

在来種

湖沼やため池、河川に生育する多年草。茎の断面は円形で確かに近縁種に比べて「フトイ」が、草丈は大きいもので2mを超え、「オオキイ」でもよい気がする。地下茎は節間が短いため、茎は密生し、群生する。



①群生する様子。②花序。③雌しべの柱頭は2～3つに分かれる。この写真のように柱頭が3つに分かれるものをオオフトイとして区別することがある。

イネ科

キシウスズメノヒエ

Paspalum distichum L.

国内分布：関東～沖縄

開花時期：7～10月

抽水
植物

外来種

湖沼、ため池、河川に生育する多年草。茎は地表や水中を横にはい、マット状に群落を広げる。花序はV字に2つに分かれる。「紀州」と日本の地名が名前についているが、外来種である。



①水際に生える様子。水辺の土手に生えることもある。②花序。Vサインのごとく2本出る。③変種のチクゴスズメノヒエは、葉鞘に密に毛が生えて、花序がVサインではなく3～4本に枝分かれする。「筑後」とつくがこれも外来種。

イネ科

ヨシ

Phragmites australis (Cav.) Trin. ex Steud.

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：8～10月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、河川、湿原、塩湿地と世界中のありとあらゆる水域に生育する多年草。別名アシ。キング・オブ・水草ともいえる植物。地下茎は横に長くは、広大に群生することも。葉の幅は3～5cm程度、長さは40cmを超えるものもあり、途中で折れ曲がり垂れることが多い。



①草丈は大きい物では4mを超える。②河川で群生する様子。

イネ科

ツルヨシ

Phragmites japonicus Steud.

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：8～10月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、河川に生育する多年草。河川の上流から中流域ではよく出会う。「ツル」と言っても、他の植物に絡みつ়く訳ではなく、茎が倒れて地表を這い、節から花茎が立ち上がる。葉の幅は3cm程度で、ヨシよりも細く短い。



①群生する様子。②水面を這って伸びる茎。

イネ科

マコモ

Zizania latifolia (Griseb.) Turcz. ex Stapf

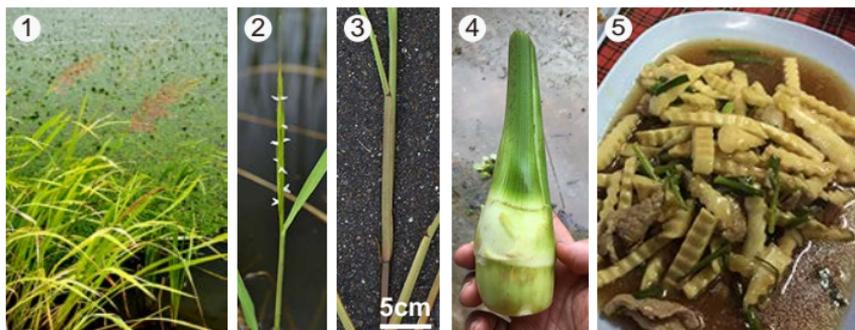
国内分布：北海道～九州

開花時期：7～10月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池、河川、水路に生育する多年草。ヨシよりも深い水深まで生育し、泥深い環境に群生する。そのため、マコモが生えているところを歩くと泥にはまって動けなくなることも。



①全体の様子。②雌しべを出した花序。③茎を包む葉鞘は厚くて柔らかい。④黒穂菌が感染して肥大化した根元の茎はマコモダケとして食用になる。⑤マコモダケ料理。

マツモ科

マツモ

Ceratophyllum demersum L.

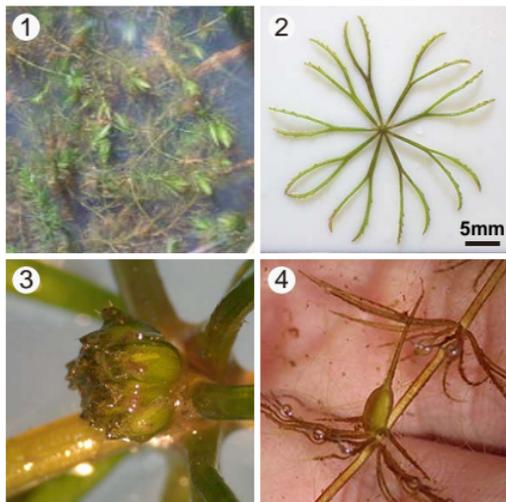
国内分布：北海道～沖縄

開花時期：5～8月

浮遊
植物

在来種

湖沼、ため池、河川のよどみに生育する多年草。根は無く水面下を漂うが、茎の一部が水底に定着していることもある。細く二又に1～2回枝分かれした葉が5～10枚輪生する。



①水面に浮かぶマツモ。②葉、二又に枝分かれし、葉の縁にはギザギザがある。③雄花の集まり。④果実。大きさは4mmぐらいで、長い刺が3本あり、葉の付け根につく。果実が付くものはまれ。刺が5本のものをゴハリマツモと呼ぶ。

キンポウゲ科

バイカモ

Ranunculus nipponicus Nakai var. *submersus* H.Hara

国内分布：北海道・本州

開花時期：5～9月

沈水
植物

在来種

湧き水が出ている小川や水路に群生する多年草。湧き水・清流と言え
ばこの水草。白い花は、名前の由来でもある梅の花に見えないこともない
が、雌しべが多数あるので全然違う。茎や葉は食感がよく、さっと茹
でて酔のものなどにして食べる。



①花。②葉は糸状に細かく分かれ、水中に群生する。③バイカモが繁茂する水路。

ハス科

ハス

Nelumbo nucifera Gaertn.

国内分布：本州～沖縄

開花時期：6～9月

抽水
植物

在来種

湖沼、ため池に生育する多年草。泥の中を伸びる地下茎の先端の数節
は冬になると越冬のために肥大化し、食用（レンコン）になる。葉柄は
葉の真ん中あたりに付く。花は3～4日開閉を繰り返す。果実は条件が
良ければ数百年以上生きることがわかっている。



①群生するハス。②花。③ハチの巣の様に見える花托（かたく）。穴の中に果実がある。

オオフサモ

Myriophyllum aquaticum (Vell.) Verdc.

国内分布：北海道？～沖縄

開花時期：5～6月

抽水
植物

外来種

湖沼やため池、河川、水路に群生する多年草。しばしば水面を覆いつくし、在来水草を駆逐する。切れた茎などから再生を繰り返して、分布を拡大する。葉は鳥の羽の様に切れ込み、白っぽい黄緑色。



①葉の根元に白い小さな花をつけた茎。雌雄異株だが日本には雌株しか入っていない。輪生する葉の枚数は在来のフサモの仲間より多く6枚。②一面に繁茂する様子。

アリノトウグサ科

ホザキノフサモ

Myriophyllum spicatum L.

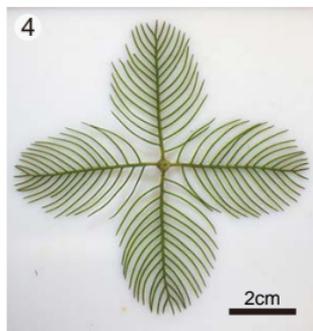
国内分布：北海道～沖縄

開花時期：5～10月

沈水
植物

在来種

湖沼、ため池、河川、水路に生育する常緑の多年草。富栄養な環境や、汽水域でも生育可能で、関西では最もよく出会うフサモの仲間。沈水葉は長さ2～3cmで4～5枚輪生する。



①水中に生える様子。水面から出ているのが花。空気中に出る茎には葉がない。②花。白っぽいのが雌花。③花。黄色っぽいのが雄花。④4枚が輪生した葉は羽状に切れ込み、羽片（1本1本の細かい部分）の数は14-20対でフサモにくらべて密につく。

アリノトウグサ科

フサモ

Myriophyllum verticillatum L.

国内分布：北海道・本州・四国

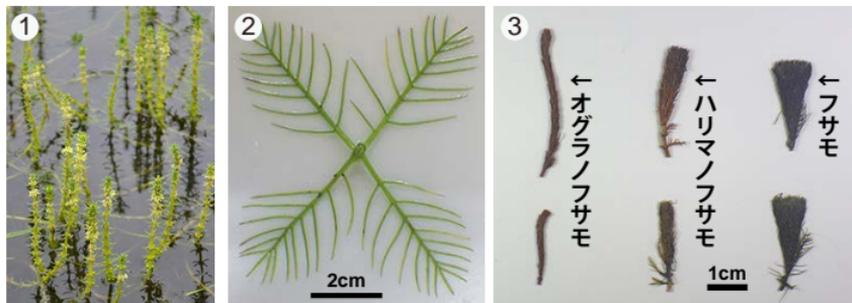
開花時期：6～9月

沈水植物

抽水植物

在来種

湖沼、ため池、河川に生育する多年草。沈水葉は長さ3～6cm。冬になると茎の先端に長さ1.5～3cm程度の越冬芽を付ける。越冬芽についた葉は沈水葉とほとんど形は変わらない。近縁種オグラノフサモとの雑種をハリマノフサモという。



①花は水面に出て、下段に雌花、上段に雄花をつける。花茎の節に明るい緑色の葉をつける。②葉。ホザキノフサモよりも羽片が少ない。③似た種類との越冬芽の比較。

ミゾハコベ科

ミゾハコベ

Elatine triandra Schkuhr var. *pedicellata* Krylov

国内分布：北海道～沖縄

開花時期：6～10月

沈水植物

浮葉沈水

抽水植物

在来種

河川、水路、ため池や水田に生育する一年草。岸边では地面を張り付けて広がる。葉は対生で長さ5mmから1cm程度。水位が高い場合は沈水状態で立ち上がり、葉も細長くなる。



①張り付いて広がっている様子。②名前も形も似たミズハコベとの比較。葉の付け根につく果実が、ミズハコベは軍配形でミゾハコベは球形。